

八色の森から Origin

令和三年度

奥只見レクリエーション都市公園
指定管理者 むつみグループ

藤塚 治 義

すべてはここから始まった。

平成三十年三月に私は南魚沼市にひとつの提案をしました。それは市報に八色の森公園やその周辺の自然情報を紹介するものでした。

南魚沼市広報誌への投稿企画

「八色の森から」（仮称）

企画趣旨

八色の森公園及びその周辺の自然の情報を南魚沼市民の皆様に紹介する。

紹介にあたっての注意事項

イベント情報ではなく、あくまで自然情報を紹介する。

自然情報の中でも、身の回り、道路の脇や田圃など、気軽に歩けるような場所で見られるものや、誰でも名前を知っているような生き物に限定する。深山の中のもの（蘭や高山植物）などは紹介しない。

提案とともに二つの記事を見本として送りました。「カタクリ」と「ユキツバキ」でした。

四月のある日、南魚沼市の市報担当の方から市報五月一日号から記事を掲載しますので、原稿「ユキツバキ」を確認してくださいと依頼がありました。こうして『八色の森から』は、平成三十年五月一日号から連載が始まりました。

その後、年号は平成から令和へと変わり、令和四年四月一日号でまる四年となります。お陰さまで連載として続けることができました。読んでくださっている皆様に感謝しております。

市報に掲載される原稿はレイアウトの都合などで一部が変更されることがあります。この冊子では市報に掲載される前の元の原稿を紹介したいと思います。

著者紹介

藤塚 治義

奥只見レクリエーション都市公園
指定管理者むつみグループ
公園管理事務所 所長

一級ビオトープ計画管理士・
技術士（総合技術監理部門・環境部門・建設部門）
公園管理運営士

公園の小鳥たち（アカゲラ）

少し前にアオゲラを紹介しましたが、今回はアカゲラです。八色の森でみられる3週類のキツツキのひとつです。アオゲラよりも少し小さく、体の色が白黒でお腹あたりが赤いのが特徴です。

留鳥なので一年中いるのですが、樹木に葉がないこのくらいの季節が観察しやすい時期です。主に昆虫類を食べますが、木の実も食べます。

たまに公園に響くドロロ・・・という音はドラミングといわれるキツツキが木をつつく音ですが、この音だけではアカゲラとアオゲラは区別が付きません。1秒間に約十六回叩きます。よく脳震盪を起さないものだと思います。これについては、頭蓋骨や脳の構造がうまくできているとか、実は脳震盪を起しているがなんとかなっているとか、いろいろな説があるようです。

キツツキは漢字で書くと「啄木鳥」です。詩人の石川啄木は少年期に故郷で聞いていたキツツキの音から名前としたとのことです。啄木はキツツキのドラミングに何を思ったのでしょうか。

（令和三年四月一日号）



てれま元っ ななせな音
 伐たせ気て キりるんかでキ
 採跡んのきツまの °ないツ
 すが °あたツす。し葉かるツ
 るあキる樹キが。ばの本この
 こよツ若木が啄 ばし人をは仲
 ことうキ木ほ（つ）みわ間
 になりだなど（つ）るかは
 ます。とたどはまです。のドラ
 木と啄啄は よや見がミ
 しかき弱 うすきグ `の

ジシバリ(イワニガナ)

公園の園路などに普通に見られる雑草です。漢字で書くと「地縛り」です。文字通り地面をはって縛るように広がりますが、ジシバリは比較的乾いた場所に生えますが、よく似ていて少し大きいオオジシバリは水田の周りなど少し湿った場所に生育します。いずれもありふれた植物ですが、地面近くに黄色い花がまとまって咲いた様子は散策などのときに目を楽しませてくれます。

ジシバリの花を見ていろいろな昆虫が花粉や蜜を求めて訪れてきます。昆虫たちにとって春の花は大切な食料なのです。ジシバリはこれらの昆虫に花粉を運んでもらうのですが、もし昆虫が花粉を運んで来てくれない場合は雌しべの先端を、くるっと丸めて同花受粉します。花を見つめてください。雌しべの先(柱頭)が丸まっていたら、それは昆虫が花粉を運んで来てくれなかった寂しい花です。

古い図鑑を見ると「ぢしぱり」と書かれています。漢字からみても「地」を縛るのですから「ヂ」が正しいようにも思うのですが、今は「ジ」を使うことになっています。



私が植物を習い始めたころは「ヂシバリ」と書く先生が多かったことを懐かしく思います。

(令和三年五月一日号)



この写真の花は八チがきて
受れたのでおそろく他の花
の花粉ができたのだらうと思
います。世界もなかなか大変
です。

ドクダミ

公園の園路などに普通に見られる雑草です。白い花びらに見えるのは総苞（そうほう）といい葉が変化したものです（一枚を総苞片（そうほうへん）と言います）。本当の花は小さくて花びらがなく総苞の上の部分にたくさんまとまって付いていて花穂（かすい）と言われます。総苞片は通常四枚ですがたくさんある園芸品種もあります。

ドクダミは地下茎で広がり、除草しても地下茎の一部が残るとそこから繁殖することができます。非常にやっかいな雑草で、農家や園芸をする方には嫌われています。

一方で、ドクダミはゲンノシヨウコ、センブリとともに三大民間薬と言われています。ドクダミは効能が十を超えるということ十薬（じゅうやく）の別名があります。加熱すると臭いが減り山菜として天ぷらなどで食されます。欧州では東洋のハーブとして人気があるそうです。

（令和三年六月一日号）



暖らかにのクア
かつしてダル以
くたて、ミバ前
なり食了をイ、
なりでベ承食トベト
すがいたて来てナム
、まともて、人
食しこい庭の留
べたろいかに学
たら少天とある生
体しぶ聞るが
がもらくド

エゴノネコアシ（虫こぶ）

八色の森には何本かエゴノキがあります。エゴノキの枝先をみるとたまにバナナの房のような形に膨れたものがみられます。これはアブラムシの一種が作らせる虫こぶ（ゴール）です。この虫こぶを猫の足に見立ててエゴノネコアシといいます。これを作らせる虫はエゴノネコアシアブラムシです。

エゴノネコアシアブラムシはこの虫こぶの中で翅の無いメスだけで増えていきます（胎生単為発生）。そして7月ころ翅をもつメスが現れ、エゴノキを離れ、イネ科の植物（アシボソ、コブナグサなど）に移ります。イネ科の植物でも翅の無いメスだけで増えていきますが、秋になると翅のある虫が現れ、再びエゴノキに移ります。そして、エゴノキではオスとメスが現れて卵を生んで卵が冬を越します。卵からかえった幼虫がエゴノキの新芽を食べるとそこにエゴノネコアシが形成されます。虫こぶはしばしば実と勘違いされますが、エゴノキの実は丸い玉状



で、枝からぶら下がっています。
(令和三年七月一日号)

ヒシ
八色の森公園の自遊池の水面を
覆うように広がっている植物がヒシ
です。菱形（ひしがた）というの
この葉の形に由来します。ヒシは根
が水底にあり、そこから長い茎がで
て水面に浮葉と言われる葉を広げま
す。水中の茎から出ているものは根
のように見えますが、葉が変形した
ものです。夏頃に水面で広がった葉



の間に白い花を咲かせます。
ヒシの実には2つの大きなトゲ
があり、水で運ばれるときに碇のよ
うな役割をするものと思われま
す。（忍者が使ったというマキビシは四
方にトゲを持つオニビシなどの実で
す。ヒシの実では横になってしま
うので足に刺さりません。）
ヒシの生育は環境にいい面と悪い
面があり、特に過繁茂は池の環境を
悪化させます。そのため適度に間引
くことが必要です。
ヒシの実は食用になり、最近各
地でヒシを食べるイベントなどが企
画されるようになりました。
八色の森でも実施してみたいも
のです。

(令和三年八月一日号)

生ヒシの葉は菱形で、根が水底にあり、茎が水面に伸び、葉を広げます。夏頃に水面で広がった葉は、水中の茎から出ているように見えますが、葉が変形したものです。八色の森公園には、ヒシの葉が広がっている様子を見ることができます。ヒシの葉は、菱形（ひしがた）の形をしています。ヒシは、根が水底にあり、茎が水面に伸び、葉を広げます。水中の茎から出ているものは、根のように見えますが、葉が変形したものです。夏頃に水面で広がった葉は、水中の茎から出ているように見えますが、葉が変形したものです。

スズメバチ

八色の森公園の危険な動物の一番はスズメバチです。公園で見られるのは、オオスズメバチ、コガタスズメバチなどです。

公園内のスズメバチは樹液に集まったり、他の昆虫を襲ったりしています。これらの働いているハチは人を襲ったりしないので、近くにハチが来ても、慌てて大きな声を出したり、手を振り回したりしななければ離れていきます。

もし、空中で止まっているハチがいたら、近くに巣があるかもしれない。その場合は静かにそこを離れてください。普通のハチの巣は木の上などにありますが、オオスズメバチの巣は地面の中にあります。散歩のとき地面から飛び出すハチがいたらご注意ください。

スズメバチによく似ているアシナガバチは胸と腹の間が細くくびれているので区別できます。公園では来園者の安全のためスズメバチやアシナガバチの巣が見つかると早急に駆除しています。しかし、ハチも生

態系の中では重要な生き物です。必要以上に恐れずに共存できればと思います。

(令和三年九月一日号)



冬前に木の葉が落ちたとき、雪が積もると、ハチの巣が壊れ、ハチが飛び出すことがあります。

キクイモ (イヌキクイモ)

八色の森公園の中にはあまり生えていませんが、魚野川の河川敷でよく見られます。キクイモは北アメリカ原産で世界中に分布している外来植物です。

根(塊茎)が芋状になるものがキクイモと言われ、何本かの根が小さく太るものがイヌキクイモと言われます。キクイモの芋の主要な成分は食物繊維とイヌリンといわれる多糖類でデンプンがほとんど含まれていません。そのため今はダイエット食品として重宝されています。昔は増量剤として栽培されていました。

キクイモとイヌキクイモは別の種類という意見もありますが、同じ種類だという考え方もあります。ただでは厳密には区別できません。花だけで見ると、舌状花(花びら状に見える部分)の数が少ないのがイヌキクイモとされています。魚野川ではイヌキクイモになるタイプが多いようです(写真のもの)。

天気がいいとキクイモの花にはいろいろな蝶や蜂が集まるとても

賑やかです。

(令和三年十月一日号)



いーらク
何緒ずイ植
だと、モ物
つと言相との
たのわ当イ勉
れに又強を
だて、悩キを
と思、んク始
いあ、だイめ
のの、のモた
で、の、のこ
すみ、違、ろ
は、が、い、
い、が、こ
っ、今、わ、
た、は、か、キ

メタセコイア

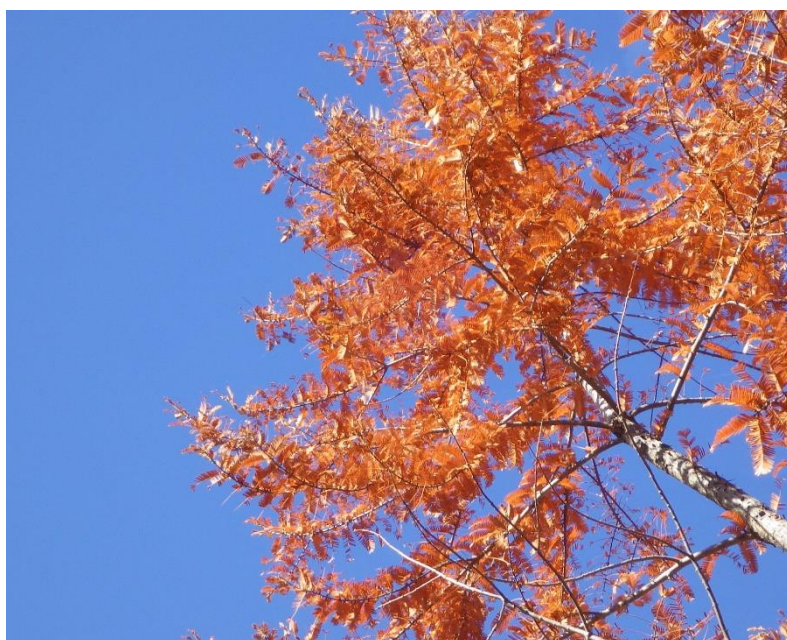
中国原産の落葉高木。化石として発掘されていた種であり、中国で見られたとき「生きている化石」として話題となりました。メタセコイア (Metasequoia) は学名で、和名はアケボノスギ。公園や並木、校庭などを中心に植栽され、今では普通にみられる木になりました。

松や杉など身の回りの針葉樹は常緑のものが多いのですが、メタセコイアは針葉樹には珍しい落葉樹です。秋になると赤茶色に紅葉します。八色の森にもところどころに植えられています。よく似た木にラクウシヨウ (落羽松) があります。メタセコイアは葉が対生 (同じところに二枚つく) ですが、ラクウシヨウは互生 (葉が互い違いにつく) です。また、ラクウシヨウは膝根 (しっこん) という根を地面から立ち上げるのが特徴です。

八色の森で、紅葉して葉を落とす針葉樹はメタセコイア以外にはカラマツがあります。カエデやブナなど紅葉を楽しめる樹木は多数あります

が、ぜひメタセコイアやカラマツなど針葉樹の紅葉もお楽しみください。

(令和三年十一月一日号)



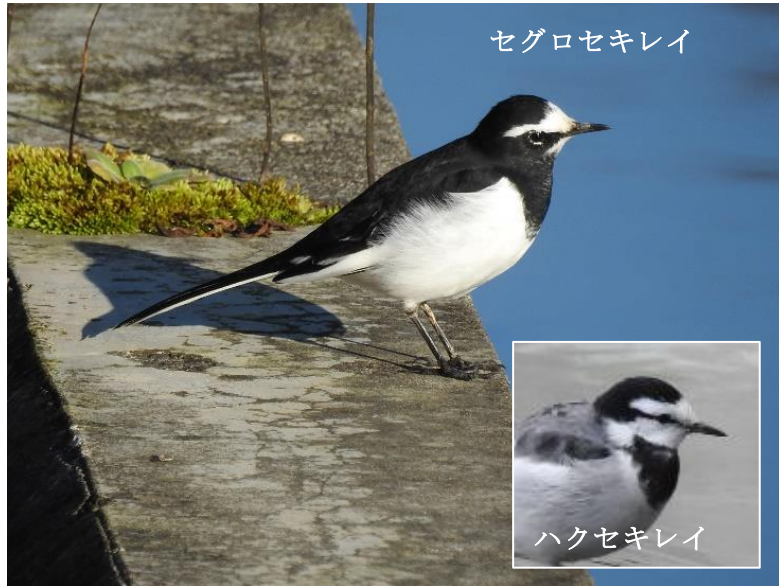
っにるの
た植化高メ
人え石木タ
が多しとにセ
かつまてなり
った人、まコ
た、気、すイ
こと、に、ア
と思、な、は
い、高、前、生
ま、木、た、育
す、な、と、が
、な、とき、早
、な、き、く
、な、き、か
、な、き、な
困庭い

セグロセキレイ

八色の森では、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイの三種のセキレイが見られます。二年前の十二月にハクセキレイを紹介しました。

ハクセキレイは顔が白くて黒い過眼線(目を通る線状の模様のこと)があります。一方、セグロセキレイは顔が黒くて額・眉・喉が白いのが特徴です。前回ハクセキレイの生息範囲が広がってきていてセグロセキレイが押されていると紹介しましたが、幸いなことに八色の森ではまだ両方が見られ、光の池で両種が追いかけてっこをしている様子がしばしば見られます。

セグロセキレイは水生昆虫を主な餌としているため、魚野川や水無川の礫河原が本来の生息地で、公園には水に惹かれてやっては来るもののあまり長居はしないという雰囲気です。ハクセキレイは同様に水生昆虫も食べるのですが、地上の虫や、飛ぶ虫なども捕まえて食べるのでセグロセキレイよりは融通が効くようです。



セキレイは冬の公園で観察できる数少ない鳥の一種です。

(令和三年十二月一日号)

昔セキレイは古事記にてくるが、イザナミコトミコトの神代卷に「八色の森」の次から通常連載はここです。八色の森からの四年間をまとめました。この森からの四年間をまとめました。

総集編① 八色の森 冬

冬、八色の森は静かに雪に覆われています。早朝、朝日を受けて樹氷が輝いています。

雪の上に残る足跡は、イタチや野ネズミ達です。彼らの足跡は雪のトンネルに続きます。公園の外からやってくるのはキツネやテンです。雪の上に散らばった羽根や骨など、彼らの狩りの跡が残っています。

自遊池でたくさん見られたカルガモやマガモなどは雪で水面がなくなるなどどこかに移動してしまっています。光の池ではカルガモに交じってオシドリが休んでいます。池の中ではコイやメダカが大人しくしていることでしょう。また、岸辺の地面の下にはトノサマガエルやツチガエルが冬眠しています。

葉の落ちた木立ではエナガやヤマガラなど小鳥の群れが見られます。そして、除雪の隙間の地面をツグミが覗いています。

日中は雪の上で遊ぶ子どもたちの元気な声が響きます。八色の森は冬もにぎやかです。

(令和四年一月一日号)



総集編② 八色の森 秋

秋、八色の森公園の周辺は黄金色の稲穂が揺れ、秋の深まりとともに収穫が進められていきます。園内の木々や、八海山など周囲の山も徐々に紅葉が進み、豊かな彩で散歩の目を楽しませてくれます。

自遊池では水面にヒシが広がり、白い花が咲いています。池の上をアキアカネ、ノシメトンボ、コノシメトンボ、マユタテアカネ、ネキトンボなどの赤とんぼがたくさん飛んでいます。また、大型のギンヤンマや小さなイトトンボの仲間が水の中に腹部を沈めて産卵しています。魚を狙ってカワセミもやってきました。

光の池では夏に比べてマガモやカルガモの数が増えてきました。秋口にやってきたオシドリは次第に模様が派手になっていきます。

園内の花にはベニシジミ、モンシロチョウなどの蝶が集まり、それをオオカマキリやハラビロカマキリが狙っています。

ブドウの稔りや、小学生の絵画展の開催など、八色の森の秋は豊かな季節です。

(令和四年二月一日号)



総集編③ 八色の森 〽夏〽

田植えが終わり、田んぼに水が張られたころ八色の森も夏を迎えます。木々はすっかり葉を繁らせ、来園者に日陰を提供しています。

初夏の夕方、湿地池ではヘイケボタルを見ることが出来ます。八色の森のヘイケボタルは年々生息数が増えていくようです。

自遊池ではミソハギの花が満開です。岸よりにはヨシやヒメガマなどの抽水植物が繁りだします。水上を全身が赤いショウジョウトンボ、羽根が黒くて広いチョウトンボ、黒のコシアキトンボなどが飛んでいます。これらはいずれも池の環境に適したトンボたちです。

夕方、地面からはい出したアブラゼミの幼虫は木を登っていきます。そして、夜になると羽化が始まります。同じころ、ナラの樹液にカブトムシやクワガタムシ、ちよっと怖いですがスズメバチなどが集まります。

子供たちが公園の中を元気に駆け回り、夏の八色の森は活力に満ちています。

(令和四年三月一日号)



総集編④ 八色の森 春

八色の森の春は少し遅い雪解けから始まります。残雪の中でキタコブシが白い花を咲かせます。桜の蕾もだいたいふくらんできました。その蕾を食べているのはウソです。

雪が解けると、冬の間、雪の布団をかぶって寝ていたユキツバキやリョウメンシダが起き上がります。積雪に耐えられない植物は雪国では生きていきません。

周囲の山々ではカタクリやキクザキイチゲが咲きだしました。園内でもタンポポ、ジシバリ、オオイヌノフグリ、コハコベ、ノミノフスマ等など春を待っていた小さな花たちが咲きだしました。

八色ツツジの別名があるレンゲツツジが咲きだすと、周囲の田んぼに水が入り、まもなく田植えが始まります。ブナやミズナラ、コナラ等の新緑が春の日差しに照らされています

繁殖期を迎える鳥たちの囀りが公園に満ちるなか、元気にあそぶ子どもたちの明るい声が響きます。

八色の森の一年が始まります。四年間ありがとうございました。連載はこれで終わりますが、ぜひ四季の声をききに公園に来てください。八色の森はいつでも皆様をお待ちしております。

(令和四年四月一日号)



四年間ありがとうございました。連載はこれで終わりますが、ぜひ四季の声をききに公園に来てください。八色の森はいつでも皆様をお待ちしております。

奥只見エレクトロニクス市は、六ヶ所市、八戸市、大館市、弘前市、青森市、秋田県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長門県、大分県、熊本県、鹿児島県、沖縄県。

令和四年春
公園総括管理責任者
藤塚 義